

実践' (1) 小説の作法 (3)

7/4

テーマ: 登場人物を立ち上げさせる

どんなことでも小説を書く目で見ていけば、いろんな問題が見えてくる。

小説 = 人間を書く = 過去があって現在があることを忘れてはならん
現在だけを書いては×。過去を書かなきゃ。
(ヨコの関係) (タテの関係)

友人関係 +α ← → 家族関係 +β

既往はαがめざし βは言わが それは個人と個人の言わね〜

ありきたりに書けば 当然 人物は薄っぺらになる

深く書くには 過去、感情など いろいろ書きこまねばいかん

言葉 = 自分で主張するものではなく、相手に判断してもらう道具
だから、ちゃんと書かんと 読者には伝わらんのよ。
「への」 「らしい」 「ようだ」が増えくると とても陳腐になる。
的確に書いて下さい。

そのために...

とにかくまずは 思ったことを書け。

そして最後まで書きあげれ。

直すのは最後まで書いてから

読み直して気付くことは多い。

→ たった 1~2年

① 戦後派作家 1946~7年に開花。→ 戦後のテンションで、
(大岡、野間、梅崎など) 一気に書ききった

② 戦後派作家 1948~50年 外国文学の影響を受けた世代。
(三島、安部、埴谷など)

重い
↓
軽い

③ 3の新人 1953-55くらいに出現 和風小説風 ← 評価されにくい
(遠藤、吉行、阿川 ほか) 群像(講談社)が書かせた。

④ 内向の世代
(黒井千次、高井有一、坂上三郎など)

このへんまでが「ネーミング」されてる。
全集が出せるくらいの世代。

それぞれの時期において 人間の書きかたはぜんぜんちがう。
長編なら自然と書けるけど 短編で人物を書くには ほどの切り口がひょう

新人賞に送ってくる作品で海外に売れてモテた話が非常に多い (笑)
(このジャンルはやめておけ、って話だ)

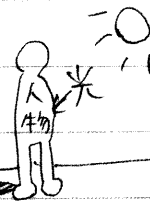
読者が審査するほうは 作家の生きざまを見たい
モヤモヤ 小説とゴシップは同じジャンルのものだから。

で、人物を書くときにどうするか...? ですよ。

長い小説とは 人物が立ち上がっている。①の条件です。

● 先生の名言コーナー

小説を書く人なんて
幸福じゃないのよ (笑)



光を当てれば「影」ができる。

影から書くのは難しいが
谷から書く山ができる!!

かげ

人物の良いところから書く... 読者の共感を得られない
人物の影から書く... 読者の気をひく... という効果も

- ⑥ 牛車に矢張り編は 閉じない (日音くおわらせなり) のが"原"より
また 人が死ぬ物語は 言平価されない
(ただし 殺すまでの心理状態を描くのはアリ
簡単に人を死なすな、ってこと)

⑦ 身近にいる人の顔を思い浮かべて書け!!

具体的に考えてないと 読者には ぶけい 人物の違いが ワカラナイ!!
人物の細部が"重要"なのであります。

だから 犬まかには 書かない。きちんと想像させる。

人となりだけでなく 矢の展開をも
和小説作家は そーやーのが すごく上手いですヨ

⑧ 人は年をとると 歴史小説を書きたくなる (過去をひもときたくなる)

人の見方を変えると 文章にも"深み"がでてくるかもね~

まとめると 漫然と書かないこと。

そして やっぱり 戻ってみるのを 怠れないこと。 ですヨ~

宮本武蔵の話 → 太宰の話 → 山本周五郎の話 なんがいろいろ

⑨ 質屋コーナー はいいけど

キモい人がひとりいるな~~~~ まあどーでもいいや...

あ、夏の響き
を言えんぞ!!

7/7 矢生の本でるよー
神知火 (小学館文庫)

外園俊子?

矢生
マスメ → 島崎藤村「破戒」 三浦哲郎「忍ぶ川」 高井有一「北の河」 「北帰行」